

平成 24 年度民営化特別養護老人ホーム等の運営状況について

- 1 法人全体 p 1
- 2 田 柄 特別養護老人ホーム等 p 2 ~ p 6
- 3 関 町 特別養護老人ホーム等 p 7 ~ p 1 1
- 4 富士見台 特別養護老人ホーム等 p 1 2 ~ 1 6
- 5 大 泉 特別養護老人ホーム等 p 1 7 ~ 2 1

1 法人全体

施設運営上の課題と取組の方向性

(1) 平成 24 年度～平成 25 年度上半期の運営課題と取組の状況

平成 24 年度介護保険制度改正への対応

デイサービスにおけるレスパイト機能や機能訓練機能、短期入所の緊急性対応など、制度改正の趣旨を勘案しながら、お客様の個別性をより重視した視点でサービスの質の向上に取り組みました。

上石神井特別養護老人ホームの開設

個別性を重視し、地域にとけこんだ施設運営を目指して、丁寧な人材育成や施設検討を行い、ユニット型の小規模な特養を上石神井地域に開設（定員 30 人）しました。日照や通風などに特に配慮した、くつろげる施設づくりなどで建物は高い評価を得ています。

また、日曜日や休日にはご家族がお見えになり、一緒に外出したり出前を頼んだりして過ごされています。整容は、地域の美容院や理髪店に出かけて、外出や談話の機会を設けており、お客様ご家族、地域の商店街などから喜ばれております。

認知症ケアへの取り組み

認知症ケアの具体的な取り組みを充実させるために、認知症ケアランドデザインを策定し、本人理解のためのアセスメント、認知症をお持ちのお客様が過ごしやすい環境づくり、認知症ケアのアクティビティづくりと実践、認知症ケアの啓発・研修の四つの視点での取り組みを明確化しました。

医療的ケアや看取りケアなどの専門性の高い介護の充実

介護士による痰の吸引について、法人として組織的に取り組み、東京都の中で先駆けてマニュアル等を整備し研修を実施しました。現在、登録介護士は 126 名います。

看取りケアについても対象者が増えています。

福祉用具の整備

法人として、お客様の安心・安全の確保と職員の介護負担軽減を目的として、約 1,000 点の福祉用具を整備しました。

(2) 平成 25 年度下半期～平成 26 年度の取組予定

介護等のサービスの質の向上と充実

認知症ケアや看取り、医療的ケアなどの質を高めながら、引き続きさまざまな安心・安全な介護サービスを提供していきます。

都市型ケアハウスの整備

高齢者の住宅問題への取り組みとして、平成 27 年 2 月に都市型軽費老人ホーム「(仮称)大泉町都市型ケアハウス」(所在地：大泉町 2 - 9) を開設予定です。

2 田柄特別養護老人ホーム等

(1) 収支状況

特別養護老人ホーム	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	429,523 千円	歳入	432,443 千円	歳入	- 2,920 千円
	介護保険	427,728 千円	介護保険	429,958 千円	介護保険	- 2,230 千円
	その他	1,795 千円	その他	2,485 千円	その他	- 690 千円
	歳出	415,278 千円	歳出	400,828 千円	歳出	14,450 千円
	人件費	262,835 千円	人件費	260,315 千円	人件費	2,520 千円
	運営費	121,564 千円	運営費	117,432 千円	運営費	4,132 千円
	その他	30,879 千円	その他	23,081 千円	その他	7,798 千円
	- 収支	14,245 千円	収支	31,615 千円	収支	- 17,370 千円

ショートステイ	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	43,451 千円	歳入	43,555 千円	歳入	- 104 千円
	介護保険	37,332 千円	介護保険	37,433 千円	介護保険	- 101 千円
	その他	6,119 千円	その他	6,122 千円	その他	- 3 千円
	歳出	36,449 千円	歳出	37,265 千円	歳出	- 816 千円
	人件費	23,846 千円	人件費	23,854 千円	人件費	- 8 千円
	運営費	10,767 千円	運営費	10,002 千円	運営費	765 千円
	その他	1,836 千円	その他	3,409 千円	その他	- 1,573 千円
	- 収支	7,002 千円	収支	6,290 千円	収支	712 千円

デイサービスセンター	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	118,268 千円	歳入	122,267 千円	歳入	- 3,999 千円
	介護保険	105,942 千円	介護保険	109,783 千円	介護保険	- 3,841 千円
	その他	12,326 千円	その他	12,484 千円	その他	- 158 千円
	歳出	98,902 千円	歳出	99,838 千円	歳出	- 936 千円
	人件費	60,723 千円	人件費	62,750 千円	人件費	- 2,027 千円
	運営費	23,392 千円	運営費	23,279 千円	運営費	113 千円
	その他	14,787 千円	その他	13,809 千円	その他	978 千円
	- 収支	19,366 千円	収支	22,429 千円	収支	- 3,063 千円

(2) 利用者状況

定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	100人	365日	36,500人
ショート	8人	365日	2,920人
デイ	40人	308日	12,320人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	人	69人	107人	409人	595人	1,180人	4.3
ショート	人	人	12人	83人	170人	163人	147人	575人	3.6
デイ	15人	32人	269人	431人	394人	127人	98人	1,366人	2.5

平均要介護度 = 要介護 1 ~ 5 利用者の介護度合計 / 要介護 1 ~ 5 利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	34,855人	95.5%
ショート	2,933人	100.4%
デイ	10,511人	85.3%

稼働率 = 利用延者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	30人	28人	2人
デイ	38人	23人	15人

(3) 施設運営状況

苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	24年8月	臥床したままベッドから車いすに移乗するとき、体の下に何かを入れていたが、その方法にびっくりしました。	家族懇談会で、ご家族に、福祉用具を利用した介護体験をしていただいています。
特 養	24年11月	家の電話番号が、特養の電話番号と似ているため、間違い電話が度々かかってきて困ります。	特養の受付に電話番号を書いた紙を置くとともに、家族通信で注意を呼びかけました。

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	24年6月	夜間、腕を支えて歩行介助しながらトイレへ移動した時、頭部を手すりにぶつけて裂傷されました。	一人ひとりの歩行の状態に合わせて、その方の安全な介助方法を再度検討し職員に周知しました。
特 養	25年2月	麻痺側の大腿骨が骨折していました。検証の結果、クッションを外す時に骨折したと思われます。	介助しやすいようにベッド位置を変更し、骨折リスクの高い方、拘縮のある方の介助方法の研修をしました。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特 養 デ イ	24年11月	町会からの「地域清掃協力要請」のチラシを見て、デイサービスでは通所のお客様の中から希望者を募り、月3回地域清掃を行っています。特養も、家族懇談会の日の午後、職員と入所のお客様とで実施しています。
特 養 デ イ	25年3月	3月11日、首都直下型地震を想定して、地域の連合防災会、消防団、光が丘消防署との大規模な総合防災訓練を実施しました。

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特 養	24年随時	新規採用職員には、入職初日に1日かけて、新しい職員への歓迎の気持ちを込めて、正規・非常勤を問わず、全職種にオリエンテーションを行っています。
特 養	24年隔月	センター方式を使用した認知症のお客様の事例検討会を、施設の配置医（精神科医）の参加で実施しました。認知症専門医の、疾患に対する説明やアドバイスは事例検討にあたって大いに参考になりました。

配置人員数【平成 25 年 3 月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	37 人	14 人	47.3 人	5 人	3 人	7 人	5 人	12 人	77 人
		(33 人)			(3 人)					
デイ	1	4 人	14 人	12.1 人	1 人	2 人	1.6 人	0 人	10 人	32 人
		(6 人)			(1 人)					

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初 職員数	年度内 入職者数	年度内 離職者数
介護士	常勤	40 人	6 人	4 人
	非常勤	22 人	9 人	3 人
看護師	常勤	6 人	1 人	2 人
	非常勤	5 人	人	人

人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

年度当初職員数は、平成 24 年 4 月 1 日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成 24 年 4 月 2 日から平成 24 年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

(4) 施設運営上の課題と取組の方向性

平成 24 年度～平成 25 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 看取り介護の充実

平成 24 年度から重点的に取り組みを始めました。お客様やご家族の「最期の迎え方」の意思の確認を行い、できるだけご希望にそえる介護をしています。

イ 認知症ケアの充実

認知症ケア推進委員会を中心に、精神科医を交えた事例検討会を開催しました。センター方式を活用しアセスメント力を強化し、ケアに活かしています。若年性認知症の方のケアの検討も実施しています。

ウ ショートステイ事業の見直し

平成 25 年 4 月から専用エリアを設け、専属スタッフで事業を行う方法に改善しました。送迎・機能訓練・提供プログラムの充実等、サービスの見直しを行いました。

エ 福祉用具・福祉機器の活用

平成 25 年度に移動用リフトが導入され、既に使用が始まっています。

オ 特養の目標利用率の達成

平成 25 年度までの目標利用率は 96% です。平成 24 年度から、利用率を維持するための改善を行いましたが、平成 24 年度は 95.5% で目標を達成できませんでした。平成 25 年度も引き続き取り組みを継続して、上半期の利用率は 97.1% で目標を達成しました。

平成 25 年度下半期～平成 26 年度の取組予定

ア ショートステイ事業の充実

提供プログラムの充実を図るとともに、平成 25 年度は認知症のお客様のケアの向上を目標にします。ショートステイ事業のサービス向上を、事業団以外の居宅介護支援事業所等に広報することも今後の目標です。

イ 認知症ケアの取り組み

精神疾患で認知症になられた方、周辺症状で周囲と軋轢がある方などのケアを、勉強会や事例検討会を通して検討していきます。

ウ 福祉用具・福祉機器の活用

リフトをはじめ、移乗ボード・移乗シートを全職員が正しく使用・活用できるように今後も取り組みます。

エ 介護予防事業の継続

練馬区からの委託事業「まる得！若返り教室」を継続します。

オ 目標利用率の達成

平成 26 年度の特養利用率目標 97% の達成に取り組みます。

3 関町特別養護老人ホーム等

(1) 収支状況

特別養護老人ホーム	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	342,516 千円	歳入	335,395 千円	歳入	7,121 千円
	介護保険	302,290 千円	介護保険	299,736 千円	介護保険	2,554 千円
	その他	40,226 千円	その他	35,659 千円	その他	4,567 千円
	歳出	309,653 千円	歳出	301,793 千円	歳出	7,860 千円
	人件費	212,466 千円	人件費	207,582 千円	人件費	4,884 千円
	運営費	95,753 千円	運営費	92,928 千円	運営費	2,825 千円
	その他	1,434 千円	その他	1,283 千円	その他	151 千円
	- 収支	32,863 千円	収支	33,602 千円	収支	- 739 千円

ショートステイ	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	48,533 千円	歳入	42,007 千円	歳入	6,526 千円
	介護保険	44,787 千円	介護保険	39,623 千円	介護保険	5,164 千円
	その他	3,746 千円	その他	2,384 千円	その他	1,362 千円
	歳出	44,617 千円	歳出	42,932 千円	歳出	1,685 千円
	人件費	28,780 千円	人件費	28,863 千円	人件費	- 83 千円
	運営費	15,246 千円	運営費	13,881 千円	運営費	1,365 千円
	その他	591 千円	その他	188 千円	その他	403 千円
	- 収支	3,916 千円	収支	- 925 千円	収支	4,841 千円

デイサービスセンター	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	124,916 千円	歳入	127,571 千円	歳入	- 2,655 千円
	介護保険	109,357 千円	介護保険	111,933 千円	介護保険	- 2,576 千円
	その他	15,559 千円	その他	15,638 千円	その他	- 79 千円
	歳出	104,149 千円	歳出	103,354 千円	歳出	795 千円
	人件費	60,462 千円	人件費	60,829 千円	人件費	- 367 千円
	運営費	31,660 千円	運営費	30,161 千円	運営費	1,499 千円
	その他	12,027 千円	その他	12,364 千円	その他	- 337 千円
	- 収支	20,767 千円	収支	24,217 千円	収支	- 3,450 千円

(2) 利用者状況

定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	70人	365日	25,550人
ショート	10人	365日	3,650人
デイ	40人	308日	12,320人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	人	2人	138人	251人	438人	829人	4.4
ショート	人	人	27人	94人	138人	145人	65人	469人	3.3
デイ	31人	111人	348人	580人	251人	258人	63人	1642人	2.4

平均要介護度 = 要介護 1 ~ 5 利用者の介護度合計 / 要介護 1 ~ 5 利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	24,292人	95.1%
ショート	3,242人	88.8%
デイ	10,498人	85.2%

稼働率 = 利用延者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	20人	20人	0人
デイ	50人	59人	9人

(3) 施設運営状況

苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
ショート	24年7月	家族からは、普通食の代わりに経腸栄養剤を依頼されていたが、お客様の要望でロールパンを提供してしまい、その後少量の嘔吐があり苦情となった。	家族の依頼は、その理由をしっかりと確認して計画書を作り、それに沿った対応を行う。変更は家族と相談のうえ行うこととした。
特養	24年9月	近隣の住民から、施設に面した歩道側の植栽が伸びすぎて通行の支障になっていると指摘があった。	直ちに、歩道に面した植栽を選定して通行の妨げにならないようにした。

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	24年7月	歩行器で歩行中に膝折れして、しゃがみ込んだ際に膝関節上部を骨折して入院となった。	人工関節の既往者で、患肢の支持性が弱い方だったため、職員間の情報の共有と見守りを徹底することとした。
ショート	25年2月	ショートステイ利用中のかたから、A型インフルエンザが発生し拡大した。	ショートステイ事業を、調整期間を含めて約3週間閉鎖した。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特養	24年7月	管理栄養士が、練馬区主催の「大災害に備える～災害対策の基本と給食施設の危機管理～」研修にパネラーとして参加し、事業団の事業継続計画を紹介した。
特養	25年2月	障害者施設職員を対象とした「腰痛予防のための介護方法」研修に、理学療法士を講師として派遣した。

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特養	24年8月	3.11大震災時の赤十字病院の取組のビデオ視聴、事業団のBCP理解などを内容に、「震災時事業継続計画」についての研修を3回開催した。参加者25名。
特養	25年10月	緊急時の対応「緊急時の初動・救急車の要請・AEDや酸素の使い方」について、講義と実技の研修を開催。参加者24名。

配置人員数【平成 25 年 3 月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	32 人	6 人	35.8 人	4 人	2 人	4.7 人	5 人	7 人	57 人
		(24 人)			(3 人)					
デイ	1	5 人	9 人	10.6 人	1 人	2 人	1.6 人	1 人	11 人	30 人
		(6 人)			(1 人)					

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初 職員数	年度内 入職者数	年度内 離職者数
介護士	常勤	37 人	2 人	2 人
	非常勤	15 人	4 人	4 人
看護師	常勤	6 人	1 人	1 人
	非常勤	4 人	2 人	2 人

人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

年度当初職員数は、平成 24 年 4 月 1 日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成 24 年 4 月 2 日から平成 24 年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

(4) 施設運営上の課題と取組の方向性

平成 24 年度～平成 25 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 人権尊重を基調とした業務の推進

人権担当のチームを配置し、ケア全体を人権尊重の視点から取り組みました。

平成 24 年度は、プライバシー保護、虐待防止、身体拘束ゼロの維持・推進、個人情報の保護など、コンプライアンス意識の醸成を図るため、施設内で 5 回の研修を実施しました。

また、看取り介護では、看取り後に振り返りを行い、職員の死生観の共通理解を高める取り組みを行いました。

イ 「気づきと声かけ」の促進

多職種によるチームで、課題に取り組む体制づくりを行い、良好なコミュニケーションが促進されました。また、業務改善につながる「気づきと声かけ」が育まれる職場風土・環境づくりに取り組み、結果、平成 24 年度は正規職員の離職者はありませんでした。

ウ 人財育成の強化

人財育成チームを配置し、計画的な職員育成に取り組みました。特に、核となる中堅職員の育成を重点的に取り組みました。

エ 短期入所事業のサービス向上の取り組み

短期入所事業では、従来、2、3 階に分かれていた居室を 2 階にまとめ、統一的なサービスを提供できるように改善しました。また、入退所持の家族の付添は、義務付けを廃止し負担軽減を図りました。

オ 経営基盤の安定化

平成 24 年度の特養の稼働率は 95.1%と、平成 23 年度の 90.8%から 4.3%アップしました。

平成 25 年度下半期～平成 26 年度の取組予定

ア 人権尊重を基調とした業務の推進

継続して取り組む課題と位置付けて、総ての業務を人権尊重の視点で取り組みます。

イ 良好な職場づくり

多職種によるチームで取り組む体制を作り、「気づくと声かけ」をさらに促進して、良好な職場づくりに努めます。

ウ 稼働率の向上

特養および短期入所の稼働率向上に、一層取り組みます。

エ 効率的な勤務体制の構築

より効率的・効果的な業務体制となるように、介護士の配置およびローテーション勤務を見直します。

4 富士見台特別養護老人ホーム等

(1) 収支状況

特別養護老人ホーム	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	282,483 千円	歳入	257,952 千円	歳入	24,531 千円
	介護保険	227,229 千円	介護保険	223,025 千円	介護保険	4,204 千円
	その他	55,254 千円	その他	34,927 千円	その他	20,327 千円
	歳出	250,915 千円	歳出	244,383 千円	歳出	6,532 千円
	人件費	180,302 千円	人件費	175,424 千円	人件費	4,878 千円
	運営費	70,354 千円	運営費	68,728 千円	運営費	1,626 千円
	その他	259 千円	その他	231 千円	その他	28 千円
	- 収支	31,568 千円	収支	13,569 千円	収支	17,999 千円

ショートステイ	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	34,260 千円	歳入	32,017 千円	歳入	2,243 千円
	介護保険	29,907 千円	介護保険	27,649 千円	介護保険	2,258 千円
	その他	4,353 千円	その他	4,368 千円	その他	- 15 千円
	歳出	44,301 千円	歳出	26,421 千円	歳出	17,880 千円
	人件費	12,134 千円	人件費	12,165 千円	人件費	- 31 千円
	運営費	9,262 千円	運営費	8,515 千円	運営費	747 千円
	その他	22,905 千円	その他	5,741 千円	その他	17,164 千円
	- 収支	- 10,041 千円	収支	5,596 千円	収支	- 15,637 千円

デイサービスセンター	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	172,862 千円	歳入	167,617 千円	歳入	5,245 千円
	介護保険	156,807 千円	介護保険	151,652 千円	介護保険	5,155 千円
	その他	16,055 千円	その他	15,965 千円	その他	90 千円
	歳出	154,972 千円	歳出	144,181 千円	歳出	10,791 千円
	人件費	82,550 千円	人件費	81,827 千円	人件費	723 千円
	運営費	31,796 千円	運営費	30,588 千円	運営費	1,208 千円
	その他	40,626 千円	その他	31,766 千円	その他	8,860 千円
	- 収支	17,890 千円	収支	23,436 千円	収支	- 5,546 千円

(2) 利用者状況

定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	50人	365日	18,250人
ショート	6人	365日	2,190人
デイ	40人	308日	12,320人
認知症	12人	308日	3,696人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	7人	26人	74人	184人	300人	591人	4.3
ショート	人	人	29人	61人	97人	70人	86人	343人	3.4
デイ	31人	41人	232人	580人	241人	134人	52人	1,311人	2.4
認知症	人	人	4人	8人	112人	93人	98人	315人	3.9

平均要介護度 = 要介護 1 ~ 5 利用者の介護度合計 / 要介護 1 ~ 5 利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	17,778人	97.4%
ショート	2,238人	102.2%
デイ	10,223人	83.0%
認知症	2,995人	81.0%

稼働率 = 利用延者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	9人	10人	1人
デイ	39人	33人	6人
認知症	13人	10人	3人

(3) 施設運営状況

苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養 デイ	年 月	特養、デイサービスともに苦情はありませんでした。	苦情があった場合は、即座に対応します。
	年 月		

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	24年9月	自立歩行中に転倒し、右大腿骨頸部骨折	車いす移動に変更し、立ち上がりや自立歩行がないように注意するようにしました。
特養	24年11月	夜間、廊下で転倒し、右大腿骨頸部骨折	プレートによる固定手術で2週間入院。病院と連携し、施設で機能訓練を実施しました。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特養	24年4月 ～通年	3か月の筋力向上トレーニングが終わった方々の、自主トレーニンググループへ、リハビリ室と設備を開放しています。また、地域で活動するボランティアグループの活動や打ち合わせの場として施設を開放しています。
特養	24年4月 ～通年	介護サポーターを養成し、地域の介護保険事業所へコーディネートし、活動が定着するようにボランティアと事業所を支援しています。

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特養	24年4月 ～通年	年度初めに、毎月1回の医務研修計画をたてて実施しました。非常勤職員を含む全職員が参加できるように工夫しました。
特養	24年4月 ～通年	毎月の介護職員会議で、認知症センター方式、事例検討、ロールプレイを取り入れ研修を定期的に継続実施しました。

配置人員数【平成 25 年 3 月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	19 人	6 人	22.7 人	4 人	1 人	4.7 人	4 人	5 人	40 人
		(16 人)			(3 人)					
デイ	1	7 人	15 人	14 人	1 人	2 人	1.4 人	1 人	14 人	41 人
		(8 人 (認知症 2 人))			(1 人)					

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	30 人	1 人	4 人
	非常勤	18 人	6 人	3 人
看護師	常勤	6 人	人	1 人
	非常勤	5 人	人	2 人

人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

年度当初職員数は、平成 24 年 4 月 1 日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成 24 年 4 月 2 日から平成 24 年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

(4) 施設運営上の課題と取組の方向性

平成 24 年度～平成 25 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア ターミナルケアの充実

配置医との連携を強化し、自然な終末期を支援する体制をつくり、看取りを実践しました。平成 24 年度は 10 名の退所者全員の方に、施設でターミナルケア及び看取りを実施しました。

イ 認知症への対応強化

適切なアセスメント・モニタリングに基づく、ケアプランと施設生活環境づくりを相互に関連させることで、症状が悪化した方々にも快適に生活していただけるように、安全で安心な環境づくりを行いました。

ウ 地域との連携強化

毎月のお客様・ご家族向けの広報紙のほか、地域向け広報紙を年 4 回発行し、富士見台町会と南田中町会の回覧板と事業団のホームページで情報を発信しました。また、地域ボランティアや練馬区の緑化事業との協働も継続的に行いました。

エ 安定的な施設経営

特養は稼働率 98% を目標にして取り組み、年間平均 97.4% とし、また、介護保険収入の対前年比率 104.2% としました。ショートステイは稼働率 100% を目標に取り組み、空床利用や緊急短期入所枠への積極的な受け入れで、年間平均 102.2% とし、また、介護保険収入の対前年比率 100.2% としました。

平成 25 年度下半期～平成 26 年度の取組予定

ア 利用者ニーズに沿ったショートステイサービスの向上

練馬区内でのショートステイ事業者の増加に伴い、利用申し込みの低下が予想されます。利用者ニーズを把握し、在宅介護を支援すると同時にサービス向上に取り組み、稼働率を維持し経営の安定化を図ります。

イ 人財育成の取り組み

職員のスキルアップを図るための、非常勤職員を含めた施設内研修は、サービスの向上に繋がるとともに職員の仕事のやりがいにもなっている。平成 25 年度下半期からは、非常勤職員対象の研修を計画的に実施し、更に充実させます。

5 大泉特別養護老人ホーム等

(1) 収支状況

特別養護老人ホーム	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	530,188 千円	歳入	535,655 千円	歳入	- 5,467 千円
	介護保険	508,769 千円	介護保険	514,018 千円	介護保険	- 5,249 千円
	その他	21,419 千円	その他	21,637 千円	その他	- 218 千円
	歳出	502,715 千円	歳出	504,325 千円	歳出	- 1,610 千円
	人件費	326,584 千円	人件費	326,482 千円	人件費	102 千円
	運営費	151,795 千円	運営費	149,960 千円	運営費	1,835 千円
	その他	24,336 千円	その他	27,883 千円	その他	- 3,547 千円
	- 収支	27,473 千円	収支	31,330 千円	収支	- 3,857 千円

ショートステイ	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	76,957 千円	歳入	75,296 千円	歳入	1,661 千円
	介護保険	67,387 千円	介護保険	65,800 千円	介護保険	1,587 千円
	その他	9,570 千円	その他	9,496 千円	その他	74 千円
	歳出	63,305 千円	歳出	64,098 千円	歳出	- 793 千円
	人件費	34,415 千円	人件費	33,621 千円	人件費	794 千円
	運営費	19,499 千円	運営費	18,598 千円	運営費	901 千円
	その他	9,391 千円	その他	11,879 千円	その他	- 2,488 千円
	- 収支	13,652 千円	収支	11,198 千円	収支	2,454 千円

デイサービスセンター	A：予算		B：決算		A - B：差額	
	歳入	154,010 千円	歳入	153,217 千円	歳入	793 千円
	介護保険	144,536 千円	介護保険	143,995 千円	介護保険	541 千円
	その他	9,474 千円	その他	9,222 千円	その他	252 千円
	歳出	133,943 千円	歳出	127,944 千円	歳出	5,999 千円
	人件費	81,626 千円	人件費	82,102 千円	人件費	- 476 千円
	運営費	29,613 千円	運営費	28,767 千円	運営費	846 千円
	その他	22,704 千円	その他	17,075 千円	その他	5,629 千円
	- 収支	20,067 千円	収支	25,273 千円	収支	- 5,206 千円

(2) 利用者状況

定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	120 人	365 日	43,800 人
ショート	15 人	365 日	5,475 人
デイ	40 人	308 日	12,320 人
認知症	12 人	308 日	3,696 人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特 養	-	-	46 人	137 人	104 人	365 人	767 人	1419 人	4.2
ショート	人	人	21 人	128 人	229 人	184 人	267 人	829 人	3.7
デ イ	1 人	15 人	212 人	590 人	345 人	141 人	27 人	1,331 人	2.4
認知症	人	人	7 人	42 人	73 人	67 人	59 人	248 人	3.5

平均要介護度 = 要介護 1 ~ 5 利用者の介護度合計 / 要介護 1 ~ 5 利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特 養	42,205 人	96.4%
ショート	5,219 人	95.3%
デ イ	10,512 人	85.3%
認知症	2,478 人	67.0%

稼働率 = 利用延者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	22 人	19 人	3 人
デイ	25 人	27 人	2 人
認知症	13 人	10 人	3 人

(3) 施設運営状況

苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	24年9月	胃ろうとなった本人の前で、嚥下機能の低下について説明を行うのは、配慮に欠けるのではないか。	病状をご本人にも理解していただき、嚥下機能の改善に向けて取り組む必要があることを説明し納得して頂いた。
ショート	24年11月	前回の利用時は、迎えの時間が9時だったのに、今回は9時30分になるのは納得できない。	ご家族の希望が9時の迎えであるので、他との調整を行い、希望どおりの時間に迎えを行った。

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
ショート	24年7月	重度の認知症のお客様で、歩行は自立していたが、転倒して右脛骨近位端を骨折した。	躓きの原因を検証し、机の配置や歩行導線上の障害物を取り除くなどの再発防止策を講じた。
特 養	24年11月	深夜、居室から出たところで、仰臥位で転倒しているところを発見。左手首を骨折していた。	自立歩行の方であるが、体調がすぐれなかったようである。体調に応じて見守りの頻度を増やすなど、個別の対応を行うことで再発防止に努めた。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特 養	24年6月	練馬区内の施設で活動するサポーターを育成する「介護サポーター養成事業」を、年2回取り組んでいる。また、活動のサポートを行っている。
特 養	24年4月	特養施設を、地域の社会資源として活用していただくために、施設を地域に開放し、毎月、各種団体に利用して頂いている。

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特 養	24年4月	特養の職員を対象に、介護技術や感染症等の研修を、年間計画に基づき毎月実施している。参加できなかった職員には伝達研修を実施している。
特 デ 養 イ	24年6月	特養はじめ、併設事業所のすべての職員を対象に、認知症ケアの事例検討会を開催している。

配置人員数【平成 25 年 3 月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	48 人	13 人	57.4 人	5 人	2 人	6.3 人	10 人	12 人	91 人
		(41 人)			(4 人)					
デイ	1	8 人	13 人	16.4 人	1 人	3 人	1.5 人	1 人	11 人	38 人
		(8 人 (認知症 2 人))			(1 人)					

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初 職員数	年度内 入職者数	年度内 離職者数
介護士	常勤	56 人	9 人	7 人
	非常勤	27 人	9 人	8 人
看護師	常勤	8 人	1 人	3 人
	非常勤	7 人	人	2 人

人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

年度当初職員数は、平成 24 年 4 月 1 日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成 24 年 4 月 2 日から平成 24 年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

(4) 施設運営上の課題と取組の方向性

平成 24 年度～平成 25 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア お客様に応じた個別ケアの推進

個別ケアを推進するために、ケアプラン作成時に課題抽出シートを作成し、日常生活上の課題をアセスメントし、生活上の課題を改善させるように取り組みました。また、認知症ケアの充実を図るため、法人のモデル事業としてアドバイザーに定期的に加わっていただき、一人ひとりのお客様を見つめて、記録の充実や情報の共有に取り組んでいます。

イ 安定した運営のための稼働率の確保

平成 24 年度の特養の稼働率は 96.4%、ショートステイの稼働率は 95.3%でした。今年度の稼働率は向上しており、特にショートステイではサービス改善効果などもあり 4.3%向上しています。

ウ 大規模災害への対策の強化

B C P に基づいた研修と訓練を実施し、職員の防災意識の涵養に努めています。特に、大規模災害を想定した参集訓練では、休日の実施にもかかわらず約 8 割の職員が施設に参集し、災害時の初動訓練に参加しました。

平成 25 年度下半期～平成 26 年度の取組予定

上半期の取り組みは引き続き取り組むとともに、以下について重点的に取り組みます。

ア 安定した運営のために

特養とショートステイの目標稼働率を達成し、安定した運営となるように取り組みます。

イ サービス向上のために

個別ケアや看取り介護の実施、ショートステイ事業の改善などサービスの質の向上を目指します。

ウ 介護人材の育成のために

将来的な介護人材の不足に備えて、小・中・高校生や区民を対象とした講座を開催し、介護に関心を持ってもらうことで、介護人材の育成につなげていきます。

エ お客様家族との連携の強化

お客様の家族に、施設の現状を知っていただくための啓発活動として、懇談会や面会の折などに、介護の場面を見ていただいたり、新たに導入した移乗用具等の福祉機器を体験していただく機会を作ります。